



# HSホールディングス

2023年3月期第2四半期

## 決算説明資料

本資料は、当社の2023年3月期第2四半期における連結業績の概要及び今後の経営展望に関する情報の提供を目的としたものであり、当社の発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料には当社の将来に関する記述が含まれております。当該記述は当社の将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。従って、将来の業績に関しては、当社の経営環境の変化等により変更を余儀なくされることがあることにご留意下さい。

商号	HSホールディングス株式会社 (HS Holdings Co., Ltd.)		
代表者	代表取締役社長 原 田 泰 成		
所在地	東京都港区虎ノ門五丁目11番1号 オランダヒルズ森タワーRoP1307号		
設立	1958年(昭和33年)1月21日		
資本金	12,223百万円		
グループ会社数	〔連結子会社〕4社 〔持分法適用関連会社〕2社		
従業員数	〔グループ全体〕 5,731名	(当社単体)	5名
		(連結子会社)	5,221名
		(持分法適用関連会社)	505名

## 【株式情報】

上場市場	東京証券取引所 STANDARD市場
証券コード	8699
発行済株式総数	40,953,500株
時価総額	45,745百万円

2022年9月末時点

1958年 1月	当社(協立証券(株))設立
1999年 3月	H.I.S.の創業者、澤田秀雄が当社代表取締役社長に就任 (2016年11月より代表取締役会長に就任)
1999年 4月	エイチ・アイ・エス協立証券(株)に商号変更
2001年 4月	エイチ・エス証券(株)に商号変更
2004年10月	大阪証券取引所ヘラクレスに株式上場 ※ 現在は東京証券取引所STANDARD市場に株式上場(証券コード:8699)
2006年 9月	エイチ・エス証券分割準備(株)(当社の証券事業の受皿会社)を設立
2007年 4月	澤田ホールディングス(株)に商号変更し、持株会社体制に移行 エイチ・エス証券分割準備(株)はエイチ・エス証券(株)に商号変更し、当社の証券事業を承継
2021年12月	澤田秀雄が当社代表取締役会長を退任し、新経営体制へ移行 HSホールディングス(株)に商号変更(2022年1月1日より)
2022年 3月	エイチ・エス証券(株)を売却

〔連結子会社〕4社 〔持分法適用関連会社〕2社

《主要関係会社》

● 連結子会社 ▲ 持分法適用関連会社

2022年9月末時点

主な業種	会社名	議決権比率
銀行	● ハーン銀行 (Khan Bank LLC)	55.30%
	● キルギスコメルツ銀行(OJSC Kyrgyzkommertsbank)	52.90%
	▲ ソリッド銀行 (JSC Solid Bank)	46.80%
債権管理回収	● エイチ・エス債権回収株式会社 ※1	100.00%
外国為替保証金取引	株式会社外為どっとコム ※2	- %
リユース買取卸売・小売事業	▲ 株式会社STAYGOLD ※3	49.00%

※1 当社は、2022年10月3日付で、連結子会社であるエイチ・エス債権回収株式会社の保有株式の全部を売却しており、その結果、第3四半期連結会計期間より当社の連結子会社から除外されることとなります。

※2 当社は、2022年9月21日付で、持分法適用関連会社である株式会社外為どっとコムの保有株式の全部を売却しており、その結果、当社の持分法対象から除外されております。なお、持分法による投資損益には、売却実行時までの同社の業績をもとにした損益が計上されております。

※3 当社は、2022年7月29日付で、株式会社STAYGOLDの株式を取得しており、その結果、当社の持分法適用関連会社となりました。なお、持分法による投資損益には、第3四半期連結会計期間から同社の業績をもとにした損益が反映されます。

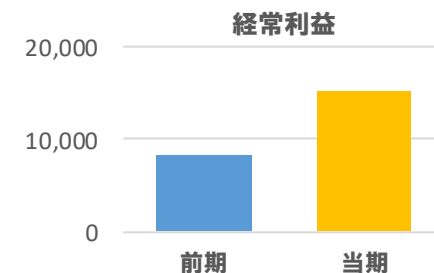
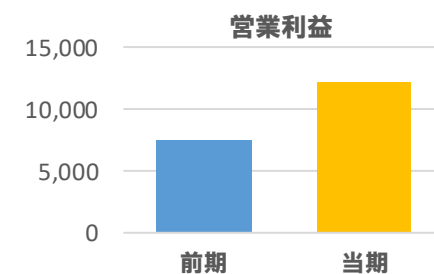
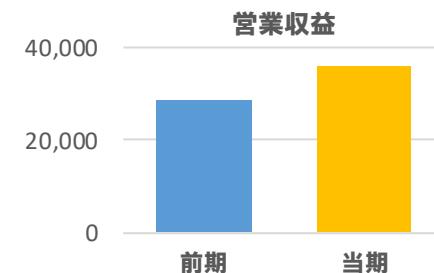
## 《主要関係会社の設立又は当社グループ加入の経緯》

● 連結子会社 ▲ 持分法適用関連会社

会社名	沿革（設立又は当社グループ加入の経緯）
● ハーン銀行（Khan Bank LLC）	2003年 国際競争入札により株式を取得
● キルギスコメルツ銀行（OJSC Kyrgyzkommertsbank）	2017年 株式を取得
▲ ソリッド銀行（JSC Solid Bank）	2012年 第三者割当増資により株式を取得
● エイチ・エス債権回収株式会社	2006年 設立
▲ 株式会社STAYGOLD	2022年 株式を取得

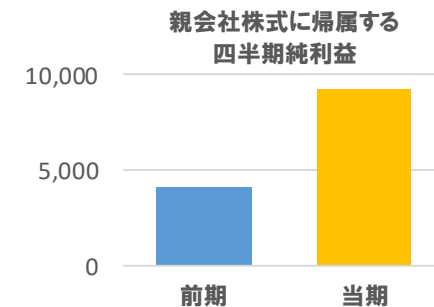
(単位:百万円)

科目 \ 期間	2022年3月期 第2四半期 (2021年4月~2021年9月)	2023年3月期 第2四半期 (2022年4月~2022年9月)	前年同期比
営業収益	28,797	35,842	124.5%
純営業収益	16,986	23,936	140.9%
営業利益	7,493	12,236	163.3%
経常利益	8,170	15,100	184.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,117	9,249	224.6%



(単位:百万円)

科目 \ 期間	2022年3月期 (2022年3月末時点)	2023年3月期 第2四半期 (2022年9月末時点)	前期末比
総資産	577,449	630,317	109.2%
純資産	74,427	88,275	118.6%
現預金	88,137	102,202	116.0%



2023年3月期第2四半期（2022年4月1日～2022年9月30日）

（単位：百万円）

科目 \ セグメント	銀行 関連事業	証券 関連事業	債権管理回収 関連事業	その他事業	連結
営業収益	34,228	-	1,611	4,842	35,842
営業収益の内訳 （外部／内部）	外 34,228 内 -	-	外 1,611 内 -	外 2 内 4,839	-
営業利益	12,343	-	337	4,184	12,236
経常利益	12,343	-	285	7,283	15,100

2022年3月期第2四半期（2021年4月1日～2021年9月30日）

（単位：百万円）

科目 \ セグメント	銀行 関連事業	証券 関連事業	債権管理回収 関連事業	その他事業	連結
営業収益	25,502	1,844	1,478	4,841	28,797
営業収益の内訳 （外部／内部）	外 25,502 内 -	外 1,814 内 29	外 1,478 内 -	外 1 内 4,840	-
営業利益	7,064	292	156	4,606	7,493
経常利益	7,064	305	104	5,463	8,170

※ 営業収益の内訳（外：外部顧客に対する営業収益／内：セグメント間の内部収益又は振替高）

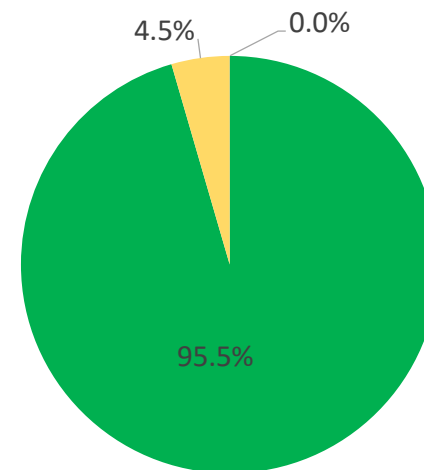
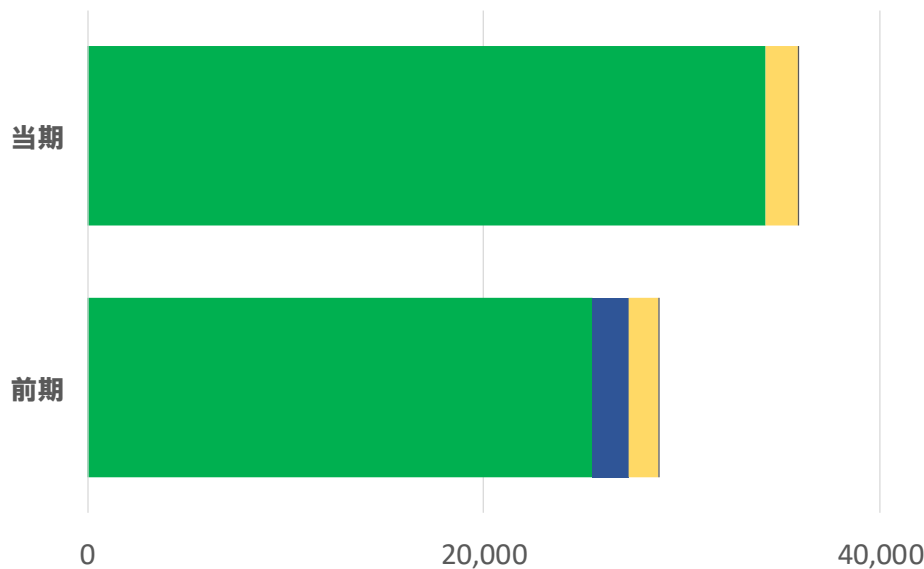
※ 連結は、セグメント間の内部収益を控除後の数値を表示。

## セグメント別営業収益（外部顧客に対する営業収益）

（単位：百万円）

セグメント	期間	2022年3月期第2四半期 (2021年4月～2021年9月)	2023年3月期第2四半期 (2022年4月～2022年9月)	前年同期比
銀行関連事業		25,502	34,228	134.2%
証券関連事業		1,814	-	- %
債権管理回収関連事業		1,478	1,611	109.0%
その他事業		1	2	150.0%
合計		28,797	35,842	124.5%

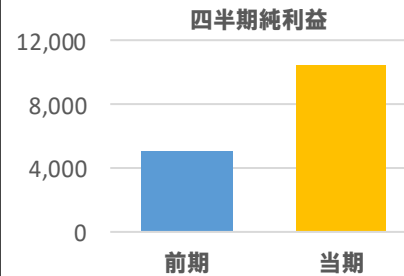
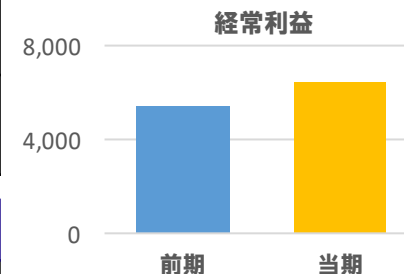
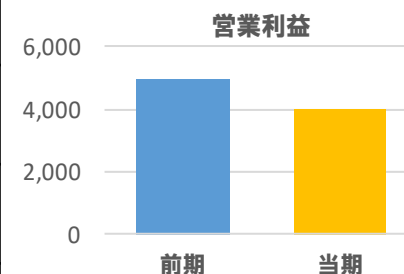
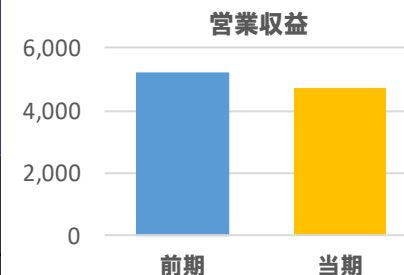
■ 銀行関連事業 ■ 証券関連事業 ■ 債権管理回収関連事業 ■ その他事業





(単位:百万円)

科目 \ 期間	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比
営業収益	5,185	4,673	90.1%
営業利益	4,950	4,024	81.3%
経常利益	5,384	6,416	119.2%
当期純利益	4,983	10,472	210.1%
総資産 【前期末 / 当期末】	31,140	44,490	142.9%
純資産 【前期末 / 当期末】	30,348	40,524	133.5%



## 主な増減要因

- 関係会社からの配当金が減少したことに伴い、前年同期比で減収。また、販管費(弁護士費用、アドバイザー費用、租税公課(外形標準課税))の増加により営業利益も減益となった。(ただし、関係会社配当金・経営管理料は内部取引のため、連結業績には影響しない)
- 当四半期は、大幅な円安により為替差益が約20億円(前年同期は約1億80百万円)計上されたことから経常利益の増益、また、外為どっとコム売却に伴う関係会社株式売却益が約78億円計上されたことから当期純利益の増益につながった。

(単位:百万MNT)

商号	ハーン銀行(Khan Bank LLC)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目</th> <th>2021年12月期 第2四半期</th> <th>2022年12月期 第2四半期</th> <th>前年同期比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Interest income (資金運用収益)</td> <td>564,150</td> <td>648,742</td> <td>115.0%</td> </tr> <tr> <td>Net interest income (純資金運用収益)</td> <td>270,550</td> <td>400,696</td> <td>148.1%</td> </tr> <tr> <td>Profit for the period (当期純利益)</td> <td>131,558</td> <td>224,593</td> <td>170.7%</td> </tr> <tr> <td>Total assets (総資産) 【前期末/当期末】</td> <td>13,572,325</td> <td>13,579,334</td> <td>100.1%</td> </tr> </tbody> </table>	科目	2021年12月期 第2四半期	2022年12月期 第2四半期	前年同期比	Interest income (資金運用収益)	564,150	648,742	115.0%	Net interest income (純資金運用収益)	270,550	400,696	148.1%	Profit for the period (当期純利益)	131,558	224,593	170.7%	Total assets (総資産) 【前期末/当期末】	13,572,325	13,579,334	100.1%
科目	2021年12月期 第2四半期		2022年12月期 第2四半期	前年同期比																		
Interest income (資金運用収益)	564,150		648,742	115.0%																		
Net interest income (純資金運用収益)	270,550		400,696	148.1%																		
Profit for the period (当期純利益)	131,558		224,593	170.7%																		
Total assets (総資産) 【前期末/当期末】	13,572,325	13,579,334	100.1%																			
所在地	モンゴル国 ウランバートル																					
資本金	172,097百万MNT (MNT:トゥグルグ)																					
議決権の 所有割合	55.30%																					
主要事業	銀行業																					

## 会社プロフィール

- ① モンゴル国内に500店舗を超える支店ネットワークを有するモンゴル最大のリテール銀行
- ② スマートフォンアプリや非接触カードの提供等のデジタルバンキングサービスを推進

## 概況

- モンゴル経済は、主に石炭や金の輸出増加により実質GDPがプラス成長に転じた。モンゴル政府が実施した景気対策(低金利融資)により、ハーン銀行の融資残高が大幅に増加したため資金運用収益が増加し、また、モンゴル政府が実施した預金利息免除の施策および預金残高の減少により資金調達費用が大幅に減少。さらに手数料収入やデリバティブ評価益の増加などもあり、当四半期のハーン銀行の業績(現地通貨基準)は増収増益。
- 個人向けにはデジタルバンキングサービスの推進、デビットカード・クレジットカードの新規発行・更新手続きの見直しによる利便性の向上、口座情報や証明書の発行等の銀行サービスを24時間365日受けることができるKIOSK端末の設置拡大など、顧客サービスの更なる向上に引き続き注力。
- モンゴル政府が実施した低金利融資の施策により、法人向け、個人向けおよび農牧業向けの全ての融資が大幅に増加しており、資金運用収益は継続的に増加している。

	2021年6月末	2022年6月末	前年同期比
Customer accounts (預金残高) (百万MNT)	11,422,478	10,361,123	90.7%
Loans and advances to customers (net) (融資残高) (百万MNT)	6,094,869	8,046,754	132.0%

【為替レート】  
2022年6月末  
1円 = 23.01MNT  
2022年1月~6月平均  
1円 = 24.22MNT

(単位:百万円)

商号	エイチ・エス債権回収株式会社	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目 \ 期間</th> <th>2022年3月期 第2四半期</th> <th>2023年3月期 第2四半期</th> <th>前年同期比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>売上高</td> <td>1,478</td> <td>1,611</td> <td>109.0%</td> </tr> <tr> <td>営業利益</td> <td>156</td> <td>337</td> <td>215.8%</td> </tr> <tr> <td>経常利益</td> <td>104</td> <td>285</td> <td>272.7%</td> </tr> <tr> <td>当期純利益</td> <td>71</td> <td>196</td> <td>275.7%</td> </tr> <tr> <td>総資産 【前期末 / 当期末】</td> <td>6,899</td> <td>6,965</td> <td>101.0%</td> </tr> </tbody> </table>	科目 \ 期間	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比	売上高	1,478	1,611	109.0%	営業利益	156	337	215.8%	経常利益	104	285	272.7%	当期純利益	71	196	275.7%	総資産 【前期末 / 当期末】	6,899	6,965	101.0%
科目 \ 期間	2022年3月期 第2四半期		2023年3月期 第2四半期	前年同期比																						
売上高	1,478		1,611	109.0%																						
営業利益	156		337	215.8%																						
経常利益	104		285	272.7%																						
当期純利益	71		196	275.7%																						
総資産 【前期末 / 当期末】	6,899	6,965	101.0%																							
所在地	東京都港区																									
資本金	500百万円																									
議決権の 所有割合	100.00%																									
主要事業	債権管理回収業																									

## 会社プロフィール

- ① 2006年に設立した債権管理回収会社(サービサー)
- ② 現在は債権管理回収業務の他、コンサルティング業務や集金代行業務を展開するなど業容を拡大

## 概況

- 不良債権市場の継続的な価格高騰と、各金融機関がコロナ禍での不良債権の処分を積極的に行っていないことから買取債権残高の減少が続くものの、債権の回収については、有担保案件からの回収が進捗したこと及び収益性の高い債権の回収が進捗した事から増収増益となった。また、原価が減少したことや販管費の増加率が抑えられたため、営業利益や経常利益、当期純利益は前年同期比で大きく増加している。
- 債権の回収が進むにつれ買取債権残高は依然として減少傾向にあるが、不良債権市場は引き続き価格高騰が続いている。コロナ禍による金融機関の緊急融資や制度融資についても、徐々に不良債権の発生は懸念されているものの、不良債権市場に供給されるのは今しばらく時間がかかるものと予想される。

	2021年6月末	2022年6月末	前年同期比
債権譲渡額を除いた買取債権の回収 (百万円)	1,402	1,518	108.3%
回収受託手数料(集金代行を含む) (百万円)	45	48	107.8%
買取債権残高 (百万円)	6,826	6,743	98.8%

(単位:百万円)

商号	株式会社外為どっとコム
所在地	東京都港区
資本金	778百万円
議決権の割合	40.19%
主要事業	第一種金融商品取引業 (外国為替保証金取引業)

科目 \ 期間	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比
営業収益	3,570	4,616	129.3%
営業利益	1,536	2,265	147.5%
経常利益	1,562	2,517	161.2%
当期純利益	1,069	1,727	161.5%

※ 当第2四半期で持分法から除外されておりますので、総資産については記載しておりません。

## 会社プロフィール

- ① 業界最大級の口座数・預り資産を誇るFX取引(外国為替保証金取引)の老舗企業
- ② 2014年より主要通貨ペアにおいて業界最狭水準のスプレッド提供を開始

## 概況

■ 当四半期の為替相場は円を中心に各通貨の変動幅が拡大し、特にドル円相場は日米金利差の拡大が意識され24年ぶりとなる水準まで円安が進行。その影響で顧客取引高が前年同期を大きく上回る水準となったため、増収増益となった。ただし、依然として、新たな異業種企業の参入により顧客の獲得競争は激化している。

※ 上記の営業収益等の業績は、第2四半期まで(2022年4月~9月)の数値となっておりますが、当社グループの連結損益計算書に計上される「持分法による投資損益」は売却実行時までの業績をもとにしたものとなっております。

(単位:百万RUB)

商号	所在地	資本金	議決権の所有割合	主要事業	期間			
					科目	2021年12月期 第2四半期	2022年12月期 第2四半期	前年同期比
ソリッド銀行(JSC Solid Bank)	ロシア連邦 ウラジオストク	1,877百万RUB (RUB:ルーブル)	46.80%	銀行業	Net interest income (純資金運用収益)	182	246	134.7%
					Net operating income (純業務収益)	478	581	121.6%
					Profit for the period (当期純利益)	101	207	204.7%
					Total assets (総資産) 【前期末/当期末】	8,909	11,361	127.5%

## 会社プロフィール

- ソリッド金融グループの一員で、カムチャツカ地方における最大資産規模の地場銀行であり、ロシア極東地域での事業拡大を推進
- 日本・ロシア合併企業の特長を活かし、両国企業のビジネスマッチングやコンサルティング業務を積極的に展開

## 概況

- 法人向け融資の増加による金利収入の増加や外貨取引による非金利収入の増加、販管費の抑制などにより、大幅な増収増益となった。預金残高・融資残高も増加傾向にあり、今後のさらなる業績向上が期待される。
- ロシア経済は、ロシア・ウクライナ問題を起因とする幅広い経済制裁や高止まりしているインフレなどの影響により実質GDP(1-6月)は前年同期比で0.4%減少となった。依然としてロシア経済の先行きは厳しく、今後、ソリッド銀行の業績に影響を与える可能性がある。
- 優良企業への貸出や為替取引・貴金属取引等の非金利収入の増加に引き続き注力。また、不良債権の回収、担保物権の売却、預金コストの削減等により、業務の合理化とともに財務状況の改善に取り組む。

	2021年6月末	2022年6月末	前年同期比	【為替レート】 2022年6月末 1RUB = 2.77円 2022年1月~6月平均 1RUB = 1.76円
Customer accounts (預金残高) (百万RUB)	5,680	8,292	146.0%	
Loans and advances to customers (融資残高) (百万RUB)	5,085	6,013	118.2%	

(単位:百万KGS)

商号	キルギスコメルツ銀行 (OJSC Kyrgyzkommertsbank)	期間	2021年12月期 第2四半期	2022年12月期 第2四半期	前年同期比
所在地	キルギス共和国 ビシュケク	科目			
資本金	1,000百万KGS (KGS:キルギスソム)	Net interest income ※ (純資金運用収益)	108	116	106.9%
議決権の 所有割合	52.90%	Operating income (純業務収益)	102	180	175.1%
主要事業	銀行業	Profit for the period (当期純利益)	△24	9	- %
		Total assets (総資産) 【前期末/当期末】	6,724	7,333	109.0%

## 会社プロフィール

- ① 中央アジアの新興国、キルギス共和国に本店を置く銀行
- ② 2017年6月、当社はキルギスコメルツ銀行の株式を取得し、当社グループの一員となる

## 概況

- キルギス経済が景気回復傾向にあるため、融資残高の増加により金利収入も増加したが、インフレ対策としての政策金利の引き上げにより預金コストが上昇し金利費用が増加、結果として純資金運用収益は小幅な増加にとどまった。純業務収益は、カード事業による手数料収入や外貨取引収入などの増加により大幅な増収となった。
- キルギス経済は、引き続きサービス業や製造業を中心に景気は回復傾向にあり、実質GDP(1-6月)は前年同期比で6.3%の増加となった。ただし、ロシア・ウクライナ問題やインフレ率の上昇により今後のキルギス経済の先行きは不透明。
- 今後も引き続き、中小企業融資の増加、カード事業やモバイルバンキングなどのリテール事業の強化による非金利収入の増加を図る。

※ 上表のNet interest incomeは、貸倒引当金繰入前の純資金運用収益(Net interest income before recovery of impairment losses on interest bearing assets)を表示しております。

	2021年6月末	2022年6月末	前年同期比	【為替レート】 2022年6月末 1KGS = 1.70円 2022年1月~6月平均 1KGS = 1.44円
Customer accounts (預金残高) (百万KGS)	4,325	4,704	108.8%	
Loans and advances to customers (融資残高) (百万KGS)	3,270	3,689	112.8%	

(単位:百万円)

商号	株式会社STAYGOLD	期間	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比
所在地	東京都渋谷区	科目			
資本金	90百万円	売上高	-	-	- %
議決権の 所有割合	49.00%	営業利益	-	-	- %
主要事業	リユース買取卸売・小売事業	経常利益	-	-	- %
		当期純利益	-	-	- %
		総資産 【前期末／当期末】	-	-	- %

## 会社プロフィール

- ① 2014年4月設立の社歴の浅い会社ながら、洗練されたWEBマーケティング手法が奏功し、若年層からの支持が大きく、買取・販売が急速に拡大。
- ② ブランド物のアパレル、アクセサリ、時計、宝飾品、貴金属などのリユース品の買取卸売や小売事業を展開。
- ③ 関東、中部、近畿を中心に店舗運営。店舗買取だけでなく、宅配買取・出張買取も実施。自社オークションを通じた販売チャネルも確立。

- ・ブランドアパレル等の中古買取・販売を行う「BRING」事業
  - ・ブランド貴金属や時計等を扱う「BRAND REVALUE」事業
- の2つを柱とする。



## 概況

- 翌第3四半期連結会計期間より、持分法による投資損益に反映されるため、第2四半期までの業績は記載していません。また、前期は当社グループに属していないため、前期の業績は記載していません。概況についても第3四半期から記載いたします。

## 《決算期の異なる会社の取扱い》 当社の決算期(3月期)と異なる以下のグループ会社に関する取扱い

会社名	決算期	連結財務諸表における取扱い／本資料の記載
ハーン銀行 (Khan Bank LLC)	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 当社の連結財務諸表の作成に当たっては、各行における第2四半期決算日(6月30日)現在の財務諸表を使用。また、連結決算日との間に生じた重要な取引は、連結上必要な調整を行う。</li> <li>■ 本資料のグループ各社の紹介ページでは、2022年1月～6月(又は6月末時点)の状況を記載(現地通貨ベース)。</li> </ul>
キルギスコメルツ銀行 (OJSC Kyrgyzkommertsbank)		
ソリッド銀行 (JSC Solid Bank)		

## 《為替レート》 以下のグループ会社の財務諸表において、現地通貨を円換算する際に使用した為替レート

会社名 【現地国名】	現地通貨	2021年12月期第2四半期		2022年12月期第2四半期	
		期末レート (2021年6月末)	平均レート (2021年1月～6月)	期末レート (2022年6月末)	平均レート (2022年1月～6月)
ハーン銀行 (Khan Bank LLC) 【モンゴル国 (Mongolia)】	トゥグルグ (MNT)	1円=25.77MNT	1円=26.47MNT	1円=23.01MNT	1円=24.22MNT
キルギスコメルツ銀行 (OJSC Kyrgyzkommertsbank) 【キルギス共和国 (Kirghiz republic)】	ソム (KGS)	1KGS=1.31円	1KGS=1.28円	1KGS=1.70円	1KGS=1.44円
ソリッド銀行 (JSC Solid Bank) 【ロシア連邦 (Russian Federation)】	ルーブル (RUB)	1RUB=1.52円	1RUB=1.45円	1RUB=2.77円	1RUB=1.76円